

わ や 便 り

〔和家たより〕 第6号

2022年3月20日発行
尾鷲市大字向井151番地1
特定非営利活動法人
まぐのりあ
電話(0597)37-4030
FAX(0597)37-4031



「焦らず、慌てず、おちついて・・・」

生活支援員 北川順子

「和家」での仕事は、夕食の準備、片付け、食事介助そして見守りです。「ただいまー」夕刻になると、仕事から帰って来る皆さんに、「お帰りー」と職員が出迎えます。夕食までの1時間半、お風呂に入る人、自室で静かに過ごす人。天気の良い日は職員と一緒に散歩に行くこともあります。その間、私は食事の準備をします。最初の頃は、時間も気持ちも余裕がなかったのですが、今では作業所での出来事などの話に耳を傾けながら、準備するのが楽しみになっています。

5時半頃に入居者さん5人が揃い、夕食が始まります。今日は一杯食べてくれるかな。刻みの具合や量はいかな。入居者の方の体調や行動を気かけながら、私は気持ちに余裕を持って接することを心がけています。焦らず、慌てず、おちついて・・・。

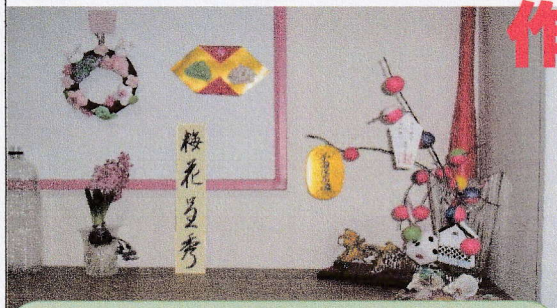
グループホームの生活から見えてくるもの

「わや便り第6号」では、「暮らしと支援」について、考えてみたいと思います。

「和家」では、チャイムによって行動を促すということはありません。生活のリズムは、自然と作られるようです。入居者と支援者の関係等から、一人ひとりの生活スタイルができていくように思います。お風呂や散歩、自室でくつろぐ・・・等々。そして、5時半頃には、食堂に集まります。食事が始まると、昼間の作業所での出来事などの話に会話が弾みます。団欒のひとつときは、一日の疲れを癒やします。何処の家庭でも見られる光景と同じでしょう。そこには、「心の通ったコミュニケーションを大切に育てていきたい。」という、支援者の気持ちがあります。心に余裕があって、相互に通うものがあるのでしょうか。まだまだ、理想とするグループホームには程遠い所に位置しておりますが・・・。今日の一步を大切に歩いていきたいと思ひます。皆様のご協力をお願いします。



作品コーナー



和家の玄関に、「和家に係わる人たち（入居者、職員、ボランティアなど）」の作品を飾っています。「余暇活動」での共同制作や寄贈された作品などです。来客の皆様にも喜ばれています。



梅花呈秀



暮らし&社会参加

和家の暮らしと社会参加の様子をお知らせします。

2019年4月、暮らしと社会参加を目的とした、「和家」を開設しました。当初は、買い物やファミレス、地域のイベントなどにも出かけていました。2020年4月頃からの、「新型コロナウイルス」の流行によって、地域のイベントも中止され、買い物やファミレスの利用、ボランティアの人たちとの交流も自粛しています。

幸い、「和家」では、感染者はいなく、生活介護等の事業所に通所しています。一日も早く、日常が取り戻され、再び、地域のイベントや買い物などに挑戦したいと思っています。今は、ホーム内での暮らしや余暇活動の充実に努めています。



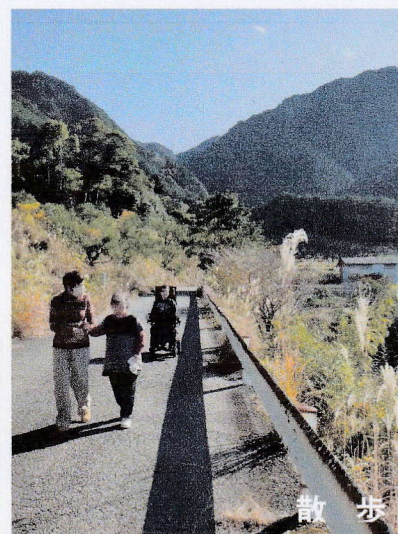
卓球



年越手打蕎麦



お誕生日会



散歩



クリスマス会



夏祭り



種まき権兵衛の里にて

ありがとうございます

当法人の活動やグループホームの運営に多くの方々からご協力がありました。大切に活用させていただきます。

【賛助会員】2021年9月1日～2022年2月28日

個人会員 115名

(合計) 249,000円(249口)

【寄付金】2021年9月1日～2022年2月28日

日本基督教団尾鷲教会 様、五味建設 様、南漢方薬局 様、善光寺 様、匿名希望 7名

(合計) 43,625円

穫れたての新鮮な野菜・お米や鮮魚等、地域の皆様からも沢山いただきました。いつもありがとうございます。



From まぐのりあ ★支援をとおして共感し喜

びを感じることができるのが福祉の仕事です。「和家」では世話人・支援員を募集しています。短時間でもOK!です。熱意のある方、是非、考えてください。★新型コロナ感染予防のため、「和家」訪問の際は、事前に電話等により連絡をお願いします。訪問時には、検温、消毒、マスク着用などをお願いします。★「わや便り第6号」の感想をお寄せください。また、和家への質問や提案。障がい者福祉に対する意見など……お寄せください。FAX(0597-37-4031)やメール(magumagu@gaea.ocn.ne.jp)にてお願いします。

編集後記 ❖「この子らを世の光に」。1946年、知的障

がい者福祉の草分けとなる「近江学園」を創設した糸賀一雄氏の言葉です。「この子たちこそが光そのものなのだから、一緒に育ちあっていかなければならない」。半世紀以上も前の言葉ですが……今も生きてるように思います。私たちには学ぶことが沢山あるように思います。言葉の意味をしっかりとつかんでいきたいと思います。❖「わや便り」今回も、話題はコロナのことになりました。次号では、買い物や街中で楽しみ、地域のイベントに参加する入居者たちのことを載せることができるだろうか？一日も早く、普通の日常が戻ってくれることを……。 (Y)